



本プレスリリースは Danone (本社: フランス・パリ、会長兼 CEO: エマニュエル・ファベール) が 2018 年 10 月 17 日 (現地時間) に発表した英文プレスリリースの抄訳です。

報道関係各位

2018 年 11 月 14 日  
ダノンジャパン株式会社

## 2018 年度第 3 四半期の業績 好調な EDP (チルド乳製品と植物由来の製品) 事業およびウォーター事業 が中国における乳幼児向け食品事業の縮小を補完

- 同一条件下の売上: 9ヶ月は 3.1%増<sup>(1)</sup>、第 3 四半期は売上高 3.3%増を含み 1.4%増
- 連結売上高は通貨の切り下げにより報告書ベースで 4.4%減の 61 億 8,600 万ユーロ
- すべての地域でウォーター事業が好調な伸びを示し EDP (チルド乳製品と植物由来の製品) 事業が大幅加速
- 中国における Specialized Nutrition (専門栄養食品事業) が 12ヶ月間の異例な成長を終えて縮小
- 2018 年度の通年予測を確認

### 会長兼 CEO エマニュエル ファベールのコメント

「直近の四半期には、ウォーター事業の強力な勢いと共に、チルド乳製品と植物由来の製品事業の成長軌道への復帰が見られました。これはいかにダノンがビジネス全体で成長のバランスをとっているかを示すものです。チルド乳製品と植物由来の製品事業およびウォーター事業の業績は、乳幼児向け食品事業の例外的な成長が潮目を迎えたことで市場動向が変化し、厳しい状況となった中国の業績を補完しました。また、持続可能で収益性の高い成長の継続を可能にする、現在の新興市場の不安定さや為替の逆風を回避するための基盤もあります。その結果、2018 年度の通年予測を再確認しました」

### 2018 年度第 3 四半期売上

単位: 100 万ユーロ (%を除く)	2017 年度 第 3 四半期	2018 年度 第 3 四半期	報告ベ スの変動	同一条件 下 の売上増減	ポリュ ム増減	2017 年度 9ヶ月	2018 年度 9ヶ月	報告ベ スの変動	同一条件 下 の売上増減	ポリュ ム増減
部門別										
EDP: インターナショナル	2,091	1,922	-8.1%	0.0%	-5.9%	6,483	5,968	-7.9%	-0.5%	-5.7%
EDP: 北米	1,275	1,293	+1.4%	+2.7%	+3.4%	3,246	3,731	+15.0%	+1.3%	+2.7%
専門栄養食品	1,838	1,723	-6.2%	-1.5%	-3.9%	5,288	5,353	+1.2%	+7.5%	+1.8%
ウォーター	1,268	1,248	-1.5%	+6.4%	+2.2%	3,656	3,527	-3.5%	+5.2%	+2.5%
地域別										
欧州および北米	3,523	3,468	-1.6%	-1.0%	-0.5%	9,795	10,231	+4.5%	-1.0%	-0.5%
その他の各国	2,949	2,719	-7.8%	+4.2%	-2.7%	8,877	8,348	-6.0%	+8.3%	+0.1%
<b>合計</b>	<b>6,472</b>	<b>6,186</b>	<b>-4.4%</b>	<b>+1.4%</b>	<b>-1.9%</b>	<b>18,672</b>	<b>18,579</b>	<b>-0.5%</b>	<b>+3.1%</b>	<b>-0.5%</b>

(1) New Danone 同一条件下 (Like for Like New Danone) での比較

- 本プレスリリースに記載されている「同一条件」および「New Danone における同一条件」を前提とした売上の変動、営業利益並びに営業利益率、継続事業に関連する利益・法人税率・1 株あたり純利益、ヤクルトとの取引による影響等に関する全ての記載事項は、IFRS で定義される財務指標とは一致しません。これらの定義および財務諸表との整合性については、4 ページから 6 ページ (原文) に掲載されております。

- 本プレスリリースに記載されている 2017 年度の第 1・第 2・第 3 四半期並びに 9ヶ月通期の数値は IFRS 第 15 号を適用して表示しております。  
- 2018 年度第 3 四半期の財務諸表において、アルゼンチンについては 1 月 1 日を開始日として、IAS 第 29 号を累積的影響を考慮せずに適用しております。但し第 1 四

For more information, please contact:  
Corporate Communications: +33 1 44 35 20 75 – Investor Relations: +33 1 44 35 20 76  
Danone: 17, Boulevard Haussmann, 75009 Paris, France

半期および第2四半期の財務諸表においてはIAS第29号の適用は考慮されておりません。詳細は4ページ(原文)をご参照下さい。

2018年9月30日に終了した3ヶ月間の連結売上高は62億ユーロとなり、同一条件下で前年比1.4%増という結果です。この売上成長には販売数量の1.9%減少を相殺する以上の伸びを示した売上高の3.3%増加が反映されています。引き続き消費者不買運動の影響を受けているモロッコを除くと、第3四半期の売上は同一条件下で2.2%増、9ヶ月の売上は3.8%増となっています。報告ベースの売上では、2017年度第3四半期に対し4.4%減で、内訳は以下の通りです。

- 主に、対ユーロで当四半期中に昨年比20%以上下落したアルゼンチン・ペソ、トルコ・リラ、ブラジル・レアルの影響による為替差損で5.2%減
- 2017年8月のStonyfield社売却に伴う連結範囲の変更による影響で0.5%減

## EDP(チルド乳製品と植物由来の製品事業)インターナショナル

チルド乳製品と植物由来の製品事業インターナショナルの業績は、第3四半期も改善が見られ、売上は同一条件下で横ばいとなり、これには販売数量の5.9%減少、売上高の5.9%増加が反映されています。モロッコを除くと2.6%増ですべての地域で向上しました。

欧州では、販売製品や展開戦略の改善による安定化に向け重要な一歩を踏み出しました。北欧では引き続き堅調に推移し、南欧では改善の兆候が見られました。Activiaブランドは多くの国で成長に転じ、回復軌道に乗っています。欧州で2番目に大きなチルド乳製品と植物由来の製品事業のブランドであるAlproは引き続き二桁の伸びを示し、東欧への拡大を始めました。CISリージョンでは価格が安定したヨーグルトに牽引され、当四半期も引き続き売上が堅調に推移しました。中南米は一桁台半ばの売上成長率を記録しており、ブラジルにおいても回復基調ですがアルゼンチンでの販売数量は下落しました。モロッコでは消費者不買運動の影響で引き続き売上が落ち込み、約35%減少となりました。

## EDP(チルド乳製品と植物由来の製品)北米

北米のチルド乳製品と植物由来の製品事業は、売上が同一条件下で2.7%増(Fresh Foodsを除くと3.5%増)となり、5四半期連続で有意義な成長加速を達成しました。これには、販売数量の3.4%増加、売上高の0.7%減少が反映されています。

ヨーグルトの売上は堅調に推移し、最も成長が著しいセグメントにおけるダノンの優位性を強化し、とりわけプロバイオティクスや子ども用、植物由来といった新興のセグメントでダイナミックな成長を果たしました。植物由来の食品および飲料では、ナッツベース飲料の需要の高まりと、隣接したセグメント(ムースやアイスクリーム)やフォーマットの拡大が奏功し、SilkおよびSo Deliciousが高い伸びを示しました。またコーヒークリーマーも好調でした。Premium Dairy(プレミアム乳製品)が回復傾向となり、売上は微減ながら第3四半期の販売数量はプラスになりました。当四半期の売上が減少したFresh Foods(生鮮食品)については、引き続き好転に向けて注力していきます。

## SPECIALIZED NUTRITION(専門栄養食品事業)

中国で12ヶ月に及ぶ異例の成長(2018年度上半期は2017年度上半期に比べ40%以上)を見せた専門栄養食品事業ですが、第3四半期の売上は同一条件下で1.5%減となりました。これには、販売数量の3.9%減少、売上高の2.4%増加が反映されています。

Advanced Medical Nutrition(医療用栄養食)は、小児向けおよび大人向けのセグメントが牽引して第3四半期も堅調な売上を達成し、患者中心のイノベティブな製品に関し、堅牢なパイプラインを継続的に供給しています。Early Life Nutrition(乳幼児向け食品)は、中国の売上が前年に比べて約20%減少し、中国の市場動向に変化の兆しが見られる中、異例の成長から一転して第3四半期はマイナス成長となりました。特にAptamil PlatinumのUltra-Premiumなど、ダノンの安定した成長と直販チャネルにおける市場シェア拡大(前年比)は、間接チャネルでの減少を完全に相殺するには至っていません。中国以外のEarly Life Nutrition(乳幼児向け食品)は、特にインドネシア、アフリカ、米国では堅調な四半期成長を記録しましたが、欧州では製法変更後に英国における悪評の影響を受けました。

## ウォーター事業

ウォーター事業は、イノベーションの加速と対象価格上昇の相乗効果を反映し、販売数量が 2.2%増、売上高が 4.2%大幅増となったことで、売上 6.4%増加の広範囲にわたる成長を果たしました。

欧州では、飲料水のイノベーションと暑夏の恩恵を受け好調な売上を示しました。北米では、エビアンの販路拡大と米国内の有名インフルエンサーによる新たなマーケティングキャンペーンにより、二桁の急成長を遂げました。アジアでは、中国で低調な時期にもかかわらず、インドネシアにおける Aqua の堅調な成長を背景に好調な伸びを示しました。中南米では、アルゼンチンは厳しい状況にありましたが、メキシコの緩やかな伸びもあり、プラス成長となりました。

## 2018 年度見通し

(2018 年 2 月 16 日、2018 年 4 月 18 日、2018 年 7 月 27 日発行のプレスリリースより)

今年度、ダノンは中期的な成長並びに短期的な効率性を共に追求することで、来る 2020 年度の目標達成に向けてさらに進んでゆきます。効率化を追求する「プロテイン(Protein)」プログラムの実施や WhiteWave 社買収から得られるシナジー効果の具体化も継続して実施致します。こうした活動が売上及び利益の継続的成長を実現させる源となります。

### マクロ経済の見通し

ダノンは、市場の不安定な状況は続く想定しています。

2018 年には原材料や包装材のコストが一桁台半ばで上昇すると見込んでいます。

- ミルク価格は全体で一桁台前半から半ばのインフレ
- 原油価格の回復による PET 価格の二桁台の上昇
- 砂糖や果物など、その他の原材料のインフレ傾向

また、為替変動、特に英ポンドの影響が続くと見込んでいます。

### 2018 年度の通年予測

ダノンは引き続き、加速度的な成長と効率性の最大化に注力します。今年度は、プロテインプログラムによる成果が得られる最初の年度となります。2018 年のダノンは、売上成長のさらなる加速と継続事業における営業粗利の改善を通じ、2020 年度の目標達成に向けて邁進致します。

その結果として 2018 年は、ヤクルト関連の影響を除き、恒常為替レートで経常的 EPS の二桁成長を目標としています。

通年予測では 2018 年 7 月 1 日以降、アルゼンチンにおけるハイパーインフレーション会計の適用を考慮しておりません。このため、恒常為替レート適用時の継続事業における 1 株あたり利益の成長性に IAS 第 29 号を適用した場合の影響については除外しております。